

平成26年度第1回函館市労働問題懇談会 会議録

1 日 時 平成26年11月14日（金）13時30分～15時

2 場 所 函館市役所8階第1会議室

3 出席者 (構成員) (敬称略)

| | |
|----------------------|---------|
| 函館公共職業安定所 雇用開発部長 | 藤 井 静 次 |
| 函館商工会議所 中小企業相談所長 | 黒 川 宣 之 |
| 北海道中小企業家同友会函館支部 事務局長 | 佐々木 靖 俊 |
| 連合北海道函館地区連合会 組織部長 | 山 田 幸 光 |
| 全労連・函館地方労働組合会議 事務局長 | 岩 瀬 英 雄 |

(ゲスト)

| | |
|-----------------------|-----|
| 北海道教育大学函館校3年 | 学生A |
| 〃 | 学生B |
| 北海道大学大学院水産科学院博士前期課程1年 | 学生C |
| 〃 | 学生D |
| 公立ほこだて未来大学大学院博士前期課程1年 | 学生E |
| 〃 | 学生F |
| 函館大学3年 | 学生G |
| 〃 | 学生H |

(函館市)

| | |
|----------------|---------|
| 経済部長 | 入 江 洋 之 |
| 経済部労働課 課長 (座長) | 佐 藤 聖智子 |
| 経済部労働課 主査 | 伊 東 光 晴 |
| 経済部労働課 主査 | 小 林 祐 樹 |
| 経済部労働課 主査 | 木 下 雄 二 |

4 内容

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶
- (3) 懇談, 意見交換
テーマ「学生を取り巻く雇用環境について」
 - ①現状について
 - ②地元就職促進について
- (4) 閉会

5 発言要旨

(座長 佐藤) 敬称略

それでは、はじめに、「現状について」といたしまして、地元企業の採用傾向や学生の皆様の就職活動の状況、市内企業への関心などについて、お話を伺いたいと思いますが、市内の企業における大学生の採用意欲というところで、どのような傾向にあるのか、函館商工会議所の黒川中小企業相談所長からお願いします。

(函館商工会議所 黒川)

商工会議所と関連団体との共催で、毎年合同企業説明会を行っておりまして、ここ数年参加企業が増えている傾向にあります。ただ、当日会場にいらしていただける学生さんの数が最近少ない状況です。開催時期が6月とか9月なものですから、大学の方に聞くとその時期は、就職が決まっている学生さんがけっこういらっしゃるというお話を聞いております。

地元企業の採用に向けての動きというのが、大企業や本州の企業に比べて少し遅いのかなという部分もありますが、地元では、なかなか計画採用ができないという企業さんも多く、採用計画を立て始めるのが今の時期という企業さんもあります。できるだけ企業には地元の学生さんへのPRなどもやっていただいて、できるだけ学生さんに地元に残っていただく、そういった取り組みもこれから必要ではないかと考えております。

(座長 佐藤)

ありがとうございます。それでは中小企業家同友会の佐々木事務局長、お願いします。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

私どもの会では新卒の採用活動も行っておりまして、先ほどお話がありましたように、関係団体と共催で合同企業説明会を今年は7月に開催しました。企業数は増えています。ですから皆様方を採用したいという企業は非常に増えております。ただ、来場する学生が少なくなっております。私どもの会では、札幌でも合同企業説明会を開催しておりますが、学生の皆さんの参加が少なくなっている状況にあります。

午前中に車のディーラーさんとお話をしましたが、例年ですと大学生を採用して来年に備えているところですが、今年は採用ができなかったのもので、大学生の枠を高校生の枠に切り替えて来年に備えるとのことでした。大学生を採用したいと思っているがなかなか採用できていないというのが中小企業の現状かなと思います。

(座長 佐藤)

市内企業においては、大学生の採用意欲は、一頃より高まってきているということですね。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

はい、高まってきております。皆様方を採用したいという企業はたくさんあります。

(座長 佐藤)

それでは、学生の皆さんにもお話を聞きしたいと思います。例えば、就職活動の取り組

み状況ですとか、就職にあたっての不安ですとか、市内企業への関心ですとか、そういったことをご発言いただきたいと思います。

(公立はこだて未来大学 学生E)

先ほど、佐々木さんの方から企業さんで大学生の採用意欲が高まってきているとのお話がありました。なぜ大学生を採りたいという意識が高まってきているのですか。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

毎年採用をしている状況ではないですが、条件としては2つあります。会社の業績が良くなったから採用するということと、欠員が出て採用するということです。

会社の業績ということ言えば、去年くらいから、ちょっと良くなってきております。完全ではありませんが。もう一つ欠員という部分に関しては、皆さん団塊の世代という方々をご存じですか。団塊の世代は人口のピラミッドの中で一番多い層ですが、同じように各企業の中でも、団塊の世代と呼ばれる方々が一番多い層になっております。団塊の世代が退職した時に、会社を継続するには人手が必要ですから、それを見越して若い人材をなるべく早めに採用したいという部分もあります。若い人を採用するといった場合に、大学生に焦点を絞っているという状況です。

(公立はこだて未来大学 学生E)

大学生を優先する理由は何ですか。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

4年間年齢を積み重ねているという部分と、その分勉強を重ねているということで、企業側としてもなるべく知識が備わっていて、社会に早く適合できる、戦力になるという意味では大学生を採用したいということになりますよね。

(函館市経済部 入江)

最近、企業も変わってきたと思います。以前の市内の状況は、製造業などは高卒の技術系の方が欲しいということでしたが、最近、団塊の世代の退職で幹部がいなくなって、大学生の方がやはり将来的には、幹部候補生となり得るので、大学生を欲しいという企業が増えてきたのは確かだと思います。人口が減ってきて、外に対して売っていくという市内の企業が、これから生き残るためにどうしたらよいかということで、大学生という人材を将来的にも確保したいという流れが最近出てきたということだと思います。

(北海道大学 学生C)

業績が良くなったり、欠員が出た時に採用するとの話でしたが、そうすると、毎年募集している企業の採用情報とたまにしか募集しない企業では、情報に差が出てきて、学生が集まるのは毎年募集している企業だと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。

(函館商工会議所 黒川)

合同企業説明会の例にありますように、採用計画があれば企業も参加しますが、無いところはなかなか手が上がらない状況です。

企業側としては、インターンシップでいい生徒さんがいれば採用したりという希望もでてくるでしょうし、函館の企業さんは、学生さんに向けたPRが弱いということですかね。

(函館市経済部 入江)

ここ2～3年ようやく採用する企業が出てきて、10年くらい採用をしていない企業もあるので、学生へのアプローチ方法がわからない企業もあるのではないかと思います。

(函館公共職業安定所 藤井)

企業がある程度の規模になってくると採用計画を立てやすい、少ないとどこで定員が減るかわからないので動きづらいという部分はあります。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

学生の皆さんにお聞きしたいのですが、就職活動の準備はいつ頃からしなければならないと考えていますか。

(北海道教育大学函館校 学生A)

現在は自己分析と企業研究をしておりますが、まだ情報入手はできておりません。3年の後期から本格的に就職活動という感じです。

(北海道教育大学 学生B)

早い人は夏からインターンシップに参加したり、公務員を目指す人は既に勉強を始めている時期なので、民間志望者も早めに動かなければと思っています。

(北海道大学 学生C)

3月解禁の1、2ヶ月前には本格的にスタートしようと考えています。学校ではセミナーや自己分析を月に1、2回行っていて、それに参加しています。

(北海道大学 学生D)

学校の就職セミナーには参加しておりますが、まだ自分から自己分析や企業研究はまだやっております。本格的にはこれからという感じです。

(公立はこだて未来大学 学生E)

首都圏の中小企業は早く内定が出る企業が多いです。これからは、春休みに長期のインターンシップに参加し、そのまま成績が良ければ内定がもらえる形になると思うので、12月から企業に連絡を取らないといけないのかなと考えております。

(公立はこだて未来大学 学生F)

4月から大学の就職ガイダンスで履歴書の書き方やマナー講座を受けています。夏休みに東京の方に2週間インターンシップに行きました。そこで自分のやりたいことと自分の持っている技術とのギャップを感じました。インターンシップに行くと本格的に就職準備しなければと意識が変わりました。

(函館大学 学生G)

今年の夏休みに2週間インターンシップに参加して、やりたいことと自分に向いていることは違うと感じました。やりたいことが白紙になってしまったので年明けにまた決めたいと考えている最中です。

(函館大学 学生H)

大学では外部講師などが来て、マナー講座や面接などをやっています。9月にインターンシップに参加して、やりたいことと実際に就いてみるのは違うと思いました。

人材が良くても学力が足りなくて落ちるという話も良く聞くので、もう今からだと遅いのかなという気もします。

(座長 佐藤)

皆さんインターンシップに参加されているようですが、先ほど話があったように、思っていたものと違うとか、企業にいい印象を持ったとか、感想などはございますか。

(北海道教育大学函館校 学生A)

私は、病院で医療事務の経験をしてきましたが、楽しかったのでそちらの道に進みたいと思っています。

(北海道教育大学函館校 学生B)

私は、知的障がい児の支援施設に行きました。興味も知識も無いまま参加して、インターンシップを終えて楽しかったのでこういう仕事に就きたいと思ったのですが、3年生になってからは、資格の取得が卒業まで間に合わなかったのもう少し早くインターンシップに行けば良かったと思っています。

(公立はこだて未来大学 学生E)

自分の場合は、一定の時間で企業の人も含めてものづくりをする、携帯のアプリやゲームを作る会社などに行きました。参加してみて「SE」の中にも種類が色々あることに気付いたので良い経験になったと思います。

(公立はこだて未来大学 学生F)

東京の会社に2週間参加しました。きっかけが、大学に来た会社の方に募集はしていなかったのですが、直接お願いをして参加しました。公募という形ではないので、参加先では学生は自分1人だけで、マンツーマンで2週間対応していただきました。小さい会社だからこそ小回りのきくインターンシップができたのかなと思います。

自分の大学ではインターンシップに行く人が多いというわけではないと思います。その理由として、東京の企業でのインターンシップにはお金がかかりますし、時間もかかります。市内で良いインターンシップ先があれば、インターンシップに行っていない層が参加すると思います。最近、学校では市外出身者が増えてきているので、道外出身者も取り込めるのではないかと思います。

(函館大学 学生G)

私もインターンシップ先では、インターンシップ生が私1人でしたが、インターン先の仕事には携わっていません。資料のまとめがメインで、頭の中で描いていたものとギャップがあって逆に混乱しました。2週間はほとんど資料整理でした。

(函館大学 学生H)

9月に1週間金融機関でのインターンシップに参加しました。自分の大学では、インターンシップに参加していない学生も多く、割とのんびり構えているように感じます。

(座長 佐藤)

企業側の方では、インターンシップの重要性、必要性もしくは意義などはどのようにお考えですか。

(函館商工会議所 黒川)

受入体制も当然必要なもので、全部の企業が出来るとういうことではないでしょうね。指導者など受入体制の問題もありますので、ほとんどの企業では余裕がないのではないのでしょうか。自分の仕事を持ちながらの指導になりますので。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

採用時期が変わる関係もあって、大企業の発想は、インターンシップが採用の戦略に変わってきております。地元企業はインターンシップの受け入れが難しく採用まで至っていないのが現状です。これは大事な要素であり啓発していきたいと考えております。

同友会でも前に未来大学の学生をインターンシップで受け入れたことがありました。自分より若い人が来ると一番若い職員が一生懸命仕事を教えて成長するという点がメリットで、そういう要素がインターンシップにはあると思います。

先ほど、地元で良いインターンシップ先があれば参加するとの発言がありましたが、学生から見た良いインターンシップとはどのようなものなのでしょうか。

(公立はこだて未来大学 学生F)

やはり距離が近いことが大事だと思います。業務以外でもプライベートも含めて実際に企業に入った感じが良かったので。

(座長 佐藤)

技術系の学生さんもいらっしゃいますが、考え方として企業へ職場体験に行った方が就職には良いという考え方と、とにかく自分の研究をして成果をアピールした方が就職に良いという両方の考え方があると聞いておりますが、そのあたりはどうでしょうか。

(北海道大学 学生C)

先輩からもインターンシップに行った方が良いとは言われますが、時間が無いです。個人的には1日とかのインターンシップは意味が無いと思います。2週間とかやらないとわからないと思います。最低でも1週間は必要かと思います。

(北海道大学 学生D)

短い期間では会社のことがよくわからないと思います。長いインターンシップで実務に関われるようなスタイルが良いと思います。

(座長 佐藤)

採用活動の解禁時期が3ヶ月繰り下げるといことで政府の方針が出されておりますけども、これに対して不安などはありますか。

(北海道大学 学生C)

理系の大学院の場合は、修士2年の4月から本格的に就活を行うこととなりますが、そうすると論文が進まなくなります。修士2年の段階で、できるだけ実験がしたいと思っても、内定が8月からになると、実験の期間が3~4ヶ月しかなくなるのできつくなると思います。

(北海道大学 学生D)

論文は12月には仕上げなければならないので、実験は11月には終える必要があります。8月に内定してからの3ヶ月しか実験期間がないので、解禁時期が遅れると実験ができなくなってくると思います。

(公立はこだて未来大学 学生E)

なるべく夏休みにインターンシップに行きたいという意識はあるので、前倒して動ける時間はできるのかなと思います。

(座長 佐藤)

例えば、1, 2年生でインターンシップに行くというのはどうでしょうか。

(北海道大学 学生C)

周りには1年生からインターンシップに行くという意識の高い人もいましたが、卒業が近づくと意識が高まるのが普通だと思います。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)

受入先としても意識が低い人が来ても困るのかなと思います。

(座長 佐藤)

それでは、次に「地元就職の促進について」ということで皆さんの意見をお伺いしたいと思います。市内の大学におきましては、地元企業への就職率が低い状況となっております、受け皿の問題や大企業志向などの要因が考えられますが、今後どのように地元への就職を促進できるのか、という視点でお話をお伺いしたいと思います。

最初に、市内への就職意識という点で学生の皆さんどうでしょうか。

(北海道教育大学函館校 学生A)

ずっと函館で暮らしてきたので、できれば残りたいと思いますが、札幌の方が企業の数も多いので悩んでいます。

(座長 佐藤)

札幌の方が条件が良いということもあるのでしょうか。

(北海道教育大学函館校 学生A)

交通の便とかも考えると函館は不便などで札幌の方がいいかなと思います。

(北海道教育大学函館校 学生B)

私は市外出身なので実家に帰りたと思います。函館で3年間暮らして住みやすいと思ったので、地元か函館かどちらかで考えています。函館は企業数もそうですが、自分の専門や興味のある業種ですと選択肢が少ない、都会は多いので出て行くのではないかと思います。

(北海道大学 学生C)

自分は市内への就職は考えていません。地元中小企業のことをよく知らないというのがありますが、名前のある企業の方が調べやすいので、気持ちはそちらに傾いています。

(北海道大学 学生D)

市内の中小企業を希望する学生はほとんどいないと思います。皆地元企業のごことはよく知らないで名前の売れている大手企業に行ってしまうというのはあると思います。

(公立はこだて未来大学 学生E)

市内はほとんど考えていません。地元企業のごことは詳しくは知りません。情報を仕入れるとしたらウェブサイトでご企業を調べていて、ハローワークのご利用はしていません。就きたい仕事は東京や札幌になるので、そちらに目線が行きがちになるという部分があります。

(公立はこだて未来大学 学生F)

自分は市内でもどこでも場所にはこだわっていません。乳業関係の仕事に就きたいのでどこでもいいと思っています。

(函館大学 学生G)

私は函館出身ですが札幌に住んでいたことがあるので、札幌に戻りたいと考えております。

(函館大学 学生H)

自分は場所ではなく職で選びたいので未定です。地元企業はどんな企業があるのかよく知らないで、もうちょっと知りたいなと思います。

(座長 佐藤)

企業のご情報とは、その企業がどのような活動をしているかという情報なのか、採用条件なのか、どのような情報が欲しいのですか。

(公立はこだて未来大学 学生E)

どんなことをしている企業なのかが大前提です。自分が調べなければいけない部分だと思

いますが、自分から調べに行かないと出てこないものだと思います。

(公立はこだて未来大学 学生F)

私は出身が市外で、函館市内の企業は、そもそも候補に入っていないので検索することが無く情報も入ってきません。地元の企業さんからもっとアプローチがなければ選択肢に入らないと思います。出身地とは別の地域に就職し一生を過ごすというは大変なことで、それを覆す企業からのアプローチがあれば良いのではないのでしょうか。

(函館市経済部 入江)

未来大学で実施している合同企業説明会などは、大手企業ばかりで地元の中小企業がなかなか入っていけないという実態もあります。

(公立はこだて未来大学 学生F)

皆が大手企業に入れるわけではないので、入れなかった層を市内企業がどうつかんでいくかという、インターンシップや情報戦略などで、試しに地元企業へ行ってみようかと感じてもらおうようにしていかないと、東京の企業をモデルにしても現状は変わらないと思います。

(公立はこだて未来大学 学生E)

函館から出て行った人のUターン就職の方が、帰って来やすいのではないかと思います。

(座長 佐藤)

就職先を決めるにあたって、皆さんが一番重視するポイントは何ですか。

(北海道教育大学函館校 学生A)

育児休暇がきちんととれる会社を選びたいと思います。

(北海道教育大学函館校 学生B)

一生続けることなので、給料ではなく自分のやりたい仕事に就きたいと考えています。好きな仕事じゃないと会社のためになる成果は出せないと思います。

(北海道大学 学生C)

やりたい仕事であることはもちろんですが、賃金が高いというよりも安定している企業、安定性を重視したいと考えています。

(北海道大学 学生D)

企業の雰囲気などが自分に合うところが良いと考えています。自分に合わなければすぐにやめてしまうと思っています。

(公立はこだて未来大学 学生E)

まずは、やりたいことができるかどうか。キャリアアップしていく中で、何を身につけることができるのかをまず考えます。さらに、インターンシップや面接などで社員を見て、楽しそうに仕事をしているのか、自分に合うのか、会社のモチベーションなどで判断します。

(公立はこだて未来大学 学生F)

おもしろさを出そうとしている企業は、来て欲しいという気持ちが伝わってきます。どのように人を集めようとしているのか、会社の勢い、社外活動なども重視します。

(函館大学 学生G)

結婚、出産をしたいと考えているので、マタハラが無い会社に就職したいと考えています。

今、ハローワークのサポートブックを見て、労働基準法で8時間働いたら1時間休憩を取ることになっているようですが、アルバイト先でそんなに休憩していないような気がします。そうしたことも重視したいと思います。

(函館大学 学生H)

社風などは大事ですが入社してからわかるものなので、まずは自分のやりたい仕事に就きたいと考えています。

(座長 佐藤)

マタハラや休憩が取れないなどの話が出ましたが、こうした労働相談は実際に受けていらっしゃるでしょうか。連合北海道の山田部長どうでしょうか。

(連合北海道函館地区連合会 山田)

最近ではマタハラの質問が多くなっています。妊娠したとたんに関長から降格になったとの事例もあり、これは完全に法律違反です。政府も含めて人口減少にどう対応するかということに取り組んでおりますので、セクハラ、パワハラなどにもしっかりと対応がなされてきております。他に相談が多いのは解雇の問題です。また、6月頃になると新入社員から人間関係や仕事の関係の相談が多数寄せられています。何かあったら信頼できる場所へ相談していただきたいと思います。

(全労連・函館地方労働組合会議 岩瀬)

私どもへの相談でもマタハラの相談は増えてきております。最近の事例では、ヘルパーの方が妊娠し、育児休業を申し出て了承されたのですが、6ヶ月後に戦力にならないため契約を更新しないと解雇を言い渡されたというケースがあり、労働審判に出しているところです。

私が以前所属していた病院では、大手の病院に人材をとられて看護師が不足しておりますので、子育てで休んでいた看護師を対象に再就職セミナーを実施し、人材確保に努めております。企業側にもこうした努力が求められていると思います。

(座長 佐藤)

最後に、行政や企業に要望することなどはありますか。

(函館大学 学生H)

自分は母子家庭で奨学金を借りていますが、4年間満額で借りていて、利息も含めると約1,000万円ほど返済することになります。企業で手助けはあるのでしょうか。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)
企業としてはそうした補助はあまりないでしょうね。

(函館大学 学生H)
奨学金返済への援助を国の方でもやっていただければ助かります。結局は自分で返済しなければならず、かなりの負担になります。こうした負担が、企業に求めること、要望などに結びついていくと思います。

(公立はこだて未来大学 学生F)
家賃補助などもあれば良いと思います。会社の寮でも良いのですが、何か経済的な援助があれば良いと思います。

(函館公共職業安定所 藤井)
満額ではないですが、家賃補助を行っている企業もあります。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)
学生の皆さんにお聞きしたいのですが、先ほど、地元企業からもっと学生に働きかけて欲しいとのお話がありましたが、情報はインターネットで仕入れて紙媒体は見ないという中で、我々企業側はどのようにコンタクトをとれば良いのか。どこにアプローチすれば良いのか教えてください。

また、Uターンで地元に戻ろうとした時に、どうやって地元企業の情報を探しているのですか。

(北海道教育大学 学生B)
地元に戻る際に情報はインターネットで調べます。また、就職している友人がたくさんいるので話を聞いたり、親に聞いたりしています。

(函館公共職業安定所 藤井)
ごく少数ですが、東京の大学生で夏休みに地元に戻ってきた時に、ハローワークに求人情報を調べに来る学生さんもおります。

(北海道中小企業家同友会函館支部 佐々木)
皆さんにアプローチする方法は、やはりインターネットなのですか。それともフェイスブックフェイスがいいのでしょうか。

(公立はこだて未来大学 学生E)
アプローチの方法は2つあると思います。一つはインターネット。もう一つはコンサルの方で新卒の窓口を持っている方が大学に来て、学生を集めているパターンもあります。

(公立はこだて未来大学 学生F)
直接、企業説明会などで大学に来ていただくのが良いのではないのでしょうか。私の場合はそこからインターンシップにもつながりましたし、話をするのが一番だと思います。

(座長 佐藤)

そろそろ予定の時間となってまいりました。

最後にまとめといたしましては、学生の皆さんはインターンシップは必要であると、その意義を重く受け止めているというように私どもも認識いたしましたし、市内の中小企業については、情報が不足しているため、学生さんに認識していただけないということもありました。また、就職にあたって、必ずしも賃金などの条件ではなく、やりがい、やりたいことを優先して就職をしようと考えているということもわかりました。

私どもでは、ちょうど来年度の予算要求の時期でもありますので、本日の懇談会での貴重なご意見も参考にしながら、雇用環境の向上に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

また、本日ご出席の学生の皆さんには、希望どおりに就職されますよう期待しておりますので、がんばってください。

それでは、労働問題懇談会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。